

	内容別・課題別の課題分析 (知識、技能)	具体的な授業改善策	評価・反省
国語	<ul style="list-style-type: none"> 漢字の長期記憶が苦手な児が多い。 知識として言葉を知らない児童が多い。 文章を書く際に、主語と述語を意味が通じるようにすることに若干の課題がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 漢字学習では、小テストなどのテストに向けて解答をあらかじめ提示しておくなどすることで、本番に向けて自分に合った学習への取り組み方を見付けられるように指導していく。また、漢字音読の活動を行い、学習漢字に慣れさせていく。 意味の分からない言葉を挙げ、言葉の意味を調べたり教えたりして児童の知識を増やしていく。オノマトペなどの豊かな表現について触れ、それを使って表現する機会を増やし、言葉を広げていく。 文章の書き方を定着させ、短い文で、主語・述語が分かりやすく書くことができるように指導する。 	<ul style="list-style-type: none"> 解答をもとに漢字テスト前の練習を行ったことで多くの児童が高得点数につながり、意欲につながった。 言葉の意味を国語辞典だけに留まってしまう。PCを活用するなど、幅を広げる必要があった。 日記を定期的に書かせていくことで文章力が伸びた。
社会	<ul style="list-style-type: none"> 教科書の内容や資料を読み取る力、知識・理解の定着状況に課題がある。 社会的な知識を応用してまとめることが難しい。 	<ul style="list-style-type: none"> 映像資料を活用し、視覚的にも理解を深めていく。 教科書や資料集の資料の読み取りを行う活動を多く取り入れていく。資料から分かることを項目ごとに、順序立てて、関連させながら整理してまとめる。 資料から読み取ったものに対して、自分の考えをもたせる活動を取り入れる。また、自分なりの考えを発表し合う機会を設ける。 語句や人物の内容を確実におさえ、既習内容をまとめる機会を作り、知識の定着を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 映像資料により、理解を深めることができた。 資料読み取りの活動を毎時間組み入れることで、読み取る技能が高まってきた。 自分なりのまとめを作らせ交流の場を設定できた。 知識の定着を図る機会を作ることができたが、確実な定着をさせることが今後の課題である。
算数	<ul style="list-style-type: none"> 分数のかけ算、わり算において、正しく約分することに課題がある児童が多い。 割合を求める問題に苦手意識のある児童が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> 途中式を必ず書かせ、約分の見直しを自分でできるように指導する。その際、字を細かく書いて分かりにくくなっている場合もあるため、見やすく2行にわたって分数を書くようにノートを使い方を指導する。 数直線を用いた指導を充実させることで、量の関係を捉えやすくし、問題場面を正しく理解し、立式できるよう指導する。 	<ul style="list-style-type: none"> 様々な形で分数の問題に取り組んだことで、分数の答えは約分することへの意識も高まり、間違いも減ってきた。ただ、数が7以上の素数での約分がまだ課題である。 数直線や関係表を用いることで、問題場面を正しく把握できる児童が少しずつ増えてきている。
理科	<ul style="list-style-type: none"> 実験結果を正しく記録できなかったり、正しく理解したりすることに若干の課題がある。 実験は進んで行うことができるが、知識の定着に課題がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 課題に対する自分の考えをもたせ、その考えとその根拠を共有することで、実験観察の意図と方法を理解できるようにする。また、それをもとに見通しをもって実験観察をすることで、結果を正しく理解できるようにする。 考察を行う際に、課題に立ち戻り、自分の予想と実験結果を比較しながらまとめさせ、知識の定着を図る。また、単元の終わりでは、学習した内容を整理させる時間を確保する。 	<ul style="list-style-type: none"> 課題に対する自分の予想をもつことや実験方法を理解することができた。実験結果から考察を書く活動を行うことで、実験結果を理解することにつながった。 単元の終わりに、学習事項をまとめ、整理する時間を設けられず、知識の確実な定着を図ることが弱かった。
音楽	<ul style="list-style-type: none"> 歌唱では、一人一人が思いをもって表現豊かに歌うことや伝えることをすすんで行えるようにしたい。 器楽では、パートの役割を意識し、全体で音を聴き合いながら合わせて演奏することが課題である。 鑑賞では、曲想及びその変化と音楽の構造との関わりについて気付いたことを言語表現することが課題である。 	<ul style="list-style-type: none"> 一人一人の思いを吸い上げて表現に生かすことができるようにワークシートに書いたり、友達に伝えたりする機会を多く設けるようにする。 互いのパートを聴き合う時間を設けたり、自分のパートと他のパートや伴奏との関わりを理解して演奏したり、録音し客観的に聴くことができるようにしたりする。 ワークシートや一人1台端末等、各自が感じたことや考えたことを表出しやすい教材を用意する。また、友達の多くの意見を共有することができるよう、板書だけでなく、ペアの意見交流や端末の活用等、工夫する。 	<ul style="list-style-type: none"> 歌唱では、自然に響く声で歌うこと、音の重なりを意識して歌うことはできるが、思いを表現につなげることについてはなかなか難しかった。 器楽では、パートの役割を理解して合奏することができた。 鑑賞では、感じたことをワークシートに書き表すことができたが、意見の共有の場面をもっと多く取ることができればよかった。
図工	<ul style="list-style-type: none"> 表現が深まる前に、作品を完成させてしまう児童がいる。 技能面や活動の見通しに課題があり、作りたいイメージが難しすぎたり簡単すぎたりしてしまう。 	<ul style="list-style-type: none"> 児童の作品を授業の始めに提示し、頑張りを認めたり、イメージを共有したりする。周りの意欲を喚起するとともに児童のアイデアを価値付ける。 一つ一つ確認して取り組めるよう、時間を区切って課題を与える。また、個別対応で声を掛ける場面を増やしたり、友達との教え合いをすすめたりして、周囲のサポート環境を整える。 	<ul style="list-style-type: none"> 意欲的に、工夫する児童が増えている。 見通しをもたせながら、毎時間「ここまでならできる」と納得させて取り組ませることができた。
家庭	<ul style="list-style-type: none"> 知識が実践につながらない児童が多い。 手縫い等の技能習得状況に課題がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 実践と知識が結びつくように授業を計画する。学習したことを家庭生活や学校生活で活用する場面を意図的に作り、知識・技能を身に付けさせる。 1人1台端末などを活用して、縫い方の方法等をわかりやすく工夫する。また、個別に指導するとともに、グループ学習や教え合いを取り入れ、身に付けさせていく。 	<ul style="list-style-type: none"> PCの活用ができなかった。 教え合いの学習が定着し、その姿が多くみられるようになった。
体育	<ul style="list-style-type: none"> 全員で協力してゲームを楽しもうとするが、技能を高めるためのポイントを自ら考える力に課題がある。 	<ul style="list-style-type: none"> めあてをもって学習に取り組むことができるように計画すると共に、学習カードを活用し、めあてに沿った振り返りを行うようにする。 動きのポイントを明確にし、1人1台端末を使いながら、互いに動きの確認ができるようにする。 ボール運動では、作戦を考えて自分の動きや役割を把握して、実践できるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 学習カードを活用して、振り返りを行うことで、自分の課題や次に意識することを明確することができた。 ボール運動で作戦を考えるとときは、それぞれの課題や特徴を生かせるようにし、協力して取り組むことができていた。

